

You, Unlimited



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学

環境サステナビリティ学部

(2027年4月新設予定*)



2027

Faculty of

Environmental Studies
and Sustainability



Discover More Design More

本物のフィールドで、本物の実践力を。

琵琶湖（滋賀県大津市）

※2026年4月、文部科学省へ設置届出書類提出。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。なお、教員については就任予定です。

専門性を備えつつ、 文系・理系の枠を超える学びで、 世界のサステナビリティを実現

都市環境工学、生物多様性科学及び経済学・経営学を横断的に学び、
自らの得意分野や興味に応じて学びを深めながら、
文理の枠を超えた発想力と創造力を磨きます。
地域社会と連携し、産業や組織に変革をもたらすリーダーシップを身につけ、
サステナブルな社会を切り拓きます。

自然に立脚した
解決策・技術を生む力

生物多様性科学

自然の価値を評価し
ネットワークを形成できる力

サステナブルな
社会

都市環境工学

経済学
・
経営学

技術の実装を
スピードアップする力



※2026年4月、文部科学省へ設置届出書類提出。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。なお、教員については就任予定です。

龍谷大学が日本で初めての 「環境サステナビリティ学部」を。

環境サステナビリティを先導する大学だからこそその学び

龍谷大学は、環境問題にいち早く取り組んできました。

2022年には「カーボンニュートラル宣言」「SDGs宣言」を発出するとともに、環境省と協定を結び、「グリーン人材の育成」にも注力してきました。

さらに2023年には3つのキャンパスすべての電力の100%再生可能エネルギー化を実現しました。これは西日本の大学では初、全国の私立大学でも初めてのことでした。

また、2023年3月には日本の大学で初めて「ネイチャーポジティブ宣言」を発出し、生物多様性を守る教育・研究を進めています。

環境サステナビリティ学部の実習フィールドの一つである、本学の「龍谷の森」は、関西の私立大学で初めて環境省から「自然共生サイト※」として認定されました。

こうした先進的な取り組みを続けてきた龍谷大学だからこそ、「環境サステナビリティ学部」を設置する意味があります。

龍谷大学でしか得られない学びで、一緒にサステナブルな社会を切り拓きましょう。

※2025年4月には、「自然共生サイト」制度を法制化した地域生物多様性増進法が施行され、環境省・農林水産省・国土交通省の共同で新法に基づく「自然共生サイト」の認定制度が始まりました。「龍谷の森」は、2025年9月16日付で新法に基づく「自然共生サイト」の認定がなされました。

育成する学生像

実践的に課題解決に向き合える次世代の環境人材を育成

建学の精神である「浄土真宗の精神」に基づいて、サステナビリティをめぐる幅広い知識を身につけるとともに、都市環境工学、生物多様性科学及び経済学・経営学に係る専門知、並びにそれらを統合した視点を獲得し、持続可能な社会の創造に向けて、実践的に課題解決に向き合える環境人材を育成します。

朽木桑原（滋賀県高島市）

Interview

インタビュー

大学を起点に、 産業・地域社会とつながる持続可能な社会へ

環境サステナビリティ学部は、文理の枠を超えた探究を基礎に、産業や地域社会と連携しながら教育・研究を進めます。従来の考えにとらわれない発想力や創造力を育み、持続可能な社会の実現に向けて、社会や組織に変革をもたらす人材を育成します。

環境・社会・経済を調和させ 「未来版三方よし」を実現する 次世代のリーダーへ（北村教授）

私は長年、企業の現場でビジネスを通じたサステナビリティの実践に取り組んできました。そこで痛感したのは、これからの企業経営には「経済（利益）」だけでなく、「社会（人々の暮らし）」と「環境（地球）」を含めた3つのバランス、いわば「未来版三方よし」の視点が不可欠だということです。私の研究テーマは、その実現に向けた「経営の最適化」です。企業が自社の利益のみを追求するのではなく、どうすれば自然環境を守り、社会課題を解決しながら成長していけるのか。そのための戦略を、実務家教員としての経験を交えて、学生のみなさんと一緒に探究したいと考えています。

この学部で身につけてほしいのは、単なる知識ではなく「考動力」です。理想の未来を描く「構想力」と、現場の現実に対応できる「知的反射力」。この2つを兼ね備え、企業や地域、行政などさまざまな組織に属する人たちとチームを組んで変革の“考動”を起こせるリーダーが、これからの時代には求められます。サステナビリティの取り組みは、「個」の力では達成できません。異なる立場の多様な知恵と力を結集し、社会を変えていく。そんなチャレンジングな学びの場が、ここにあります。次代を担うみなさんと議論できることを楽しみにしています。

北村 暢康 教授

【専門分野】企業とサステナビリティ



「自治」「共創」「ファイナンス」 3つの視点から 地域の未来を支える実践者に（山口教授）

自治体や公益財団法人での実務経験を通じて「自然資本をベースにした持続可能な地域社会の実現」に取り組んできました。現在、日本の多くの地域では、人口減少やインフラの老朽化、財政難といった深刻な課題に直面しています。これらを解決するには、「自治」「共創」「ファイナンス」の視点が不可欠です。税金だけに頼るのではなく、ローカルファイナンスの仕組みを構築し、地域課題を解決する活動を資金面から持続可能にする。そして、行政、企業、NPO、大学といった多様な主体が、立場を超えて手を取り合う「共創」の場をデザインすることが重要なのです。例えば滋賀県では、琵琶湖の固有種を守るために、地域住民や企業、学生が魚道を設置し、新たな金融スキームで活動を支えるプロジェクトが進んでいます。「現場の知恵」と「仕組みづくり」を結ぶ研究を、今後さらに発展させていきたいと考えています。

みなさんに学んでほしいのは「自治の視点」です。それは社会を良くするだけでなく「自分がどう生きていくか」を描き出す力にもなります。他者を尊重し、共に困難を乗り越え、楽しみながら未来を切り拓く。そんな大人をめざして、対話を介して共に学び、実践していきましょう。

山口 美知子教授

【専門分野】地域コミュニティ、
コミュニティファンド



科学的な根拠を武器に 自然と人間社会をつなぐ 架け橋となる人材に（山中教授）

私の専門は生態学です。現在は、水や空気中のDNAを分析し、そこにどんな生き物がいるかを調べる「環境DNA」分析技術の開発に取り組んでいます。これは、目に見えない「生物多様性」をデータとして可視化する技術です。これまでの環境保全は、一部の意識の高い人々の善意に頼りがちでした。しかし、本気で「ネイチャーポジティブ（自然再興）」をめざそうと考えるなら、社会全体で取り組む必要があります。どこに、どんな生物がいるか、そしてその変化を正確に知らなければなりません。大学などの研究機関が科学的な観測技術を提供し、企業や行政と協力してデータの蓄積を進め、その「エビデンス（証拠）」に基づいて正しい意思決定を行える仕組みの整備が急がれます。私の研究は今、各種の開発に伴う環境アセスメントや、自然共生サイトのモニタリングなどで活用され始めています。この学部で学生みなさんに期待するのは、こうした科学的なエビデンスをもとに、論理的に解決策を提案できる人材になることです。自然を守ることは、決して経済の足かせ（コスト）ではありません。技術とデータを用いて多様なステークホルダーをつなぎ、自然資本を守ることで社会の利益を生み出すシステムを、共に構築していきましょう。

山中 裕樹教授

【専門分野】生物多様性科学、環境DNA学



Hot Topics

環境サステナビリティ学部の取り組み

文系・理系を問わず、4年間をととした体験・共創型PBL「クエスト科目群」

4年間、「体験して、問い、動いて、つなげる」学びを、何度も循環させましょう。クエスト科目群は、講義で得た知識を現場で確かめ、現場での気づきを講義に持ち帰る、循環型の学びです。文系・理系を問わず、すべての学生が「考える力」「動く力」「つなぐ力」を身につけ、ネイチャーポジティブ時代の社会で活躍できる人材へ成長します。

グリーン人材・環境人材

3・4年次 特別研究Ⅰ／Ⅱ

研究室に所属し、テーマを深める「自分だけの研究」を形にします。3年次は、教員の指導のもと、文献読解や現地調査、研究方法論を学びながら、自ら問いを立て、調査・分析・考察を行い、研究の形にまとめます。4年次には、3年次までの学びと経験を土台にして、より独自性の高い視点から研究を発展させます。分析・検証・考察のすべてを主体的に組み立てていく経験は、大学での学びの集大成となります。



■文系タイプの学びの様子



■理系タイプの学びの様子



■メンター実践の学びの様子

4年次 メンター実践

3年次生の学びを支える立場に立ち、教えることを通じて自らの理解を深める実践科目です。対話と伴走を通じて、学びを言語化し、他者に伝える力を磨きます。

2年次 オンサイトソリューション

環境を学んだ“その先”にあるキャリアを、自分の目で確かめます。企業、自治体、NPO、コンサルティング、研究現場など、環境にかかわる職場を訪問または参加し、実際に働く人々の課題に向き合います。現場型のインターン、大学発プロジェクト、往復型の学び（現場×大学）など、多様なスタイルで実施。環境学が社会でどう活かされているのかを理解し、キャリアの方向性を早い段階から描けるようになります。



■島根県／海士町



■ベトナム／ハノイ



■滋賀県／びわ湖大津キャンパス・龍谷の森

1年次 琵琶湖プロジェクト

地元・琵琶湖とその流域を舞台に、環境問題の全体像を「自分の目」でつかめます。水質、流域の森、環境インフラ、外来種、産業、暮らし——多様な現場を訪れ、地域が抱える課題を五感でとらえます。そのうえで、少人数チームを組み、実際の問題を1つ選んで本気で調べ、議論し、解決案をまとめます。教員との密な対話のなかで、「問いの立て方」「調べ方」「まとめ方」の基礎が自然に身につきます。文理どちらの学生にも開かれた、“学びの入口”となります。



■滋賀県／琵琶湖



■京都府／貴船

1年次 オンサイトエクスカージョン

“妥協のない現場”に立つことで、環境を学ぶ意欲を一気に引き出します。希少生物の保全現場、湿原・離島の自然、水インフラ、資源循環の最前線など、多様性と現実が交差する場所を訪れます。自然の迫力、人間活動の複雑さ、環境問題がはらむリアリティに触れ、「環境を学ぶとはどういうことか」を身体で理解するプログラムです。フィールドでの体験が、その後の専門学修への強い原動力になります。



■沖縄県／伊江島



■タイ／チェンマイ



龍谷大学 学長
安藤 徹

環境省 事務次官
上田 康治氏

環境省と連携し、 「地域脱炭素の推進に関する協力協定」を締結。 世界で活躍できるグリーン人材をともに育成。

地球環境を守りながら、社会や経済を持続可能にするために活躍する「グリーン人材」が世界で求められています。環境サステナビリティ学部では、環境省との連携のもと、専門知識を備えつつ、環境政策・資源循環・ネイチャーポジティブ経営など、あらゆる角度から環境問題に向き合い、課題を見つけ解決する「実践的な力」を身につけます。

環境問題が複雑化・深刻化する今日、龍谷大学が環境サステナビリティ学部を新設されることは、誠に時宜を得た重要な取り組みであると感じております。今、私たちは持続可能な社会への大きな転換期に立っています。新学部には、科学的な知見を深めるだけでなく、それを実社会の課題解決に結びつけることのできる、広い視野をもった人材の育成を期待します。多様な関係者と協力し、環境、経済、社会の統合的な向上を具現化していく教育研究は、未来を切り拓く大きな力となるはずです。学際的かつ実践的な学びを通じて、より良い地球環境を次世代へ引き継ぐために、貴学部が大きな役割を果たされることを心より祈念いたします。

上田 康治氏
環境省事務次官



理論と実践の往還で、未来の経済社会を創る

現在、私たちは気候変動・生物多様性の損失および汚染という3つの世界的危機に直面しています。未来の経済社会を構想する次世代に必要なのは、知識の取得だけでなく、現場での「対話」や「実践」を重ねて「理論」を磨き上げる「理論と実践の往還」です。新学部がめざす人材像は、この複合的な危機を乗り越えるために望ましい方向性だといえます。地域に飛び込み、感性を磨いてください。みなさんのチャレンジを心から応援しています。

黒部 一隆 客員教授

環境省大臣官房
総合政策課
環境教育推進室室長
(環境計画室併任)



課題の同時解決で、持続可能な社会を築く

環境課題と、地域社会の弱体化や自然災害への対応といった多様な課題を同時に解決し、持続可能な社会を築く視点が重要度を増しています。新学部には、こうした視点を体系的に修得できるプログラムが用意され、環境省からは国・政府の最新の政策動向が提供されます。世の中の大きな動きのなかで、何を学ぶべきかを把握する基礎情報として活用してください。次世代を牽引する人材が数多く輩出されることを期待しています。

村井 啓朗 客員教授

環境省大臣官房
総合政策課
課長補佐(総括)／
政策企画官

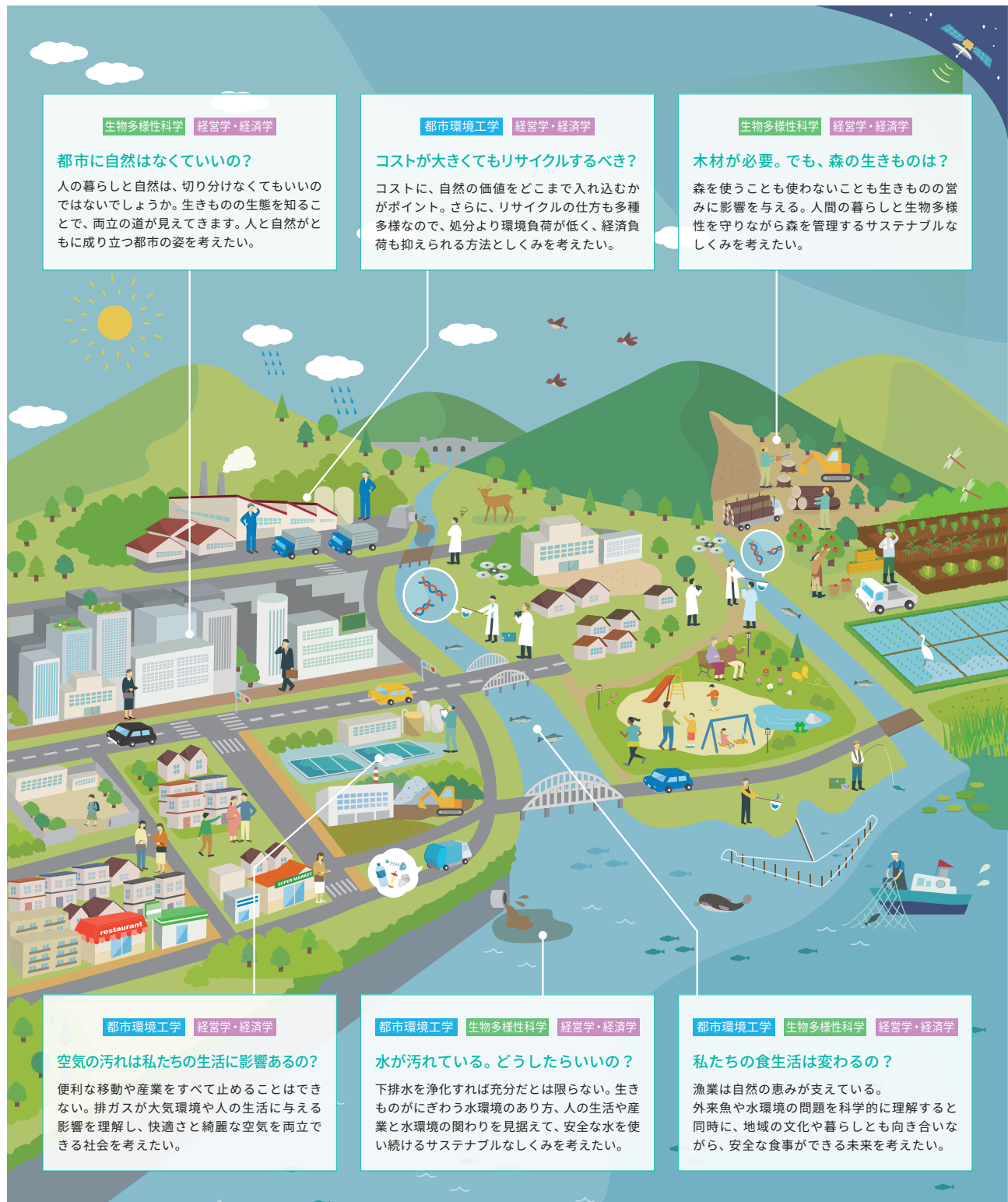


Academic Overview

環境サステナビリティ学部の学びの概要

多様な分野にまたがって、サステナブルな社会を実現

環境問題の解決には、科学的な知識だけでなく、社会や経済の理解も不可欠です。文系と理系の学びが融合してこそ、サステナブルな社会の実現に向けた多面的なアプローチが可能になります。



文系・理系の枠を超えて、世界をつなぐ5つのプログラム

都市環境工学・生物多様性科学および経済学・経営学など、複数の切り口からあなたの得意分野や興味にあわせて学びを選び、サステナブルな社会を切り拓きます。5つのプログラムと、それぞれのプログラムを代表する科目を紹介します。



地域デザインプログラム

地域の強みを活かして、どう良くしていくのか

地域コミュニティに着目し、自然資本をベースとした地域の資本や地域経営について学び、地域の資本を適正に認識して持続的に発展していけるように地域をデザインする方策について考えます。

地域デザイン概論

地域の課題を解決するために、企業や行政、市民などが協力して新しい価値を生み出す方法を学びます。実例や対話を通じて、地域づくりの視点を身につけます。

コミュニティマネジメント

地域の自然や人のつながりを活かし、合意形成や対話を学びながら持続可能なまちづくりを実践します。



ネイチャーポジティブ経営プログラム

企業が自然を大切にしながら成功するには

企業などの組織に着目し、生物多様性の定量化方法や生物多様性喪失が組織経営に及ぼす影響について学びネイチャーポジティブを組織経営に接続させる方策について考えます。

サステナブル経営戦略

企業が社会や環境と共に持続するための経営方法を学びます。実際の企業の事例をもとに、未来に向けたビジネスのあり方を考えます。

ネイチャーポジティブ経営概論

企業が自然を守り豊かにするネイチャーポジティブを学び、事例を通じて持続的成長との関係を探ります。



生物多様性回復プログラム

失われつつある生き物の世界をどう守り、取り戻すのか

生態系とそれを支える生物多様性、さらには社会経済活動との相互作用について学び、生物多様性の保全・回復と社会経済活動との共存方策について考えます。

生物多様性保全学

生き物の多様性を守るために必要なしくみや考え方を学びます。法律や国際的な取り組み、保全の実例も紹介します。

環境DNA分析実践

環境DNAを使って生物多様性や分布などを推定する最新解析技術を実践的に学びます。



資源循環利用プログラム

ごみをなくし、資源をムダにしない社会へ

社会経済活動に伴って排出される廃棄物に着目し、廃棄物廃棄の適正化や資源としての循環再利用について学び、循環経済の実現方策について考えます。

資源循環システム

資源を無駄なく使うしくみを学びます。リサイクルや環境への影響、関連する法律などについて、基礎から理解を深めます。

廃棄物と化学

廃棄物処理で発生する化学物質やPOPsの動向を学び、管理のしくみと国際的枠組みを理解します。



持続的水資源管理プログラム

生命に不可欠な『水』をどう守り、どう使っていくのか

すべての生命を支える水資源に着目し、水環境保全や水資源利用に係る技術、社会経済システムについて学ぶとともに、持続的な水資源管理のあり方について考えます。

水文学

雨や地下水など、水の流れや循環について学びます。水資源の利用や環境保全に役立つ知識を身につけることができます。

流域水利用システム

流域での水の流れや循環、水利用の現状やしくみを学び、持続的な水利用の方法について考えます。

4-Year Studies

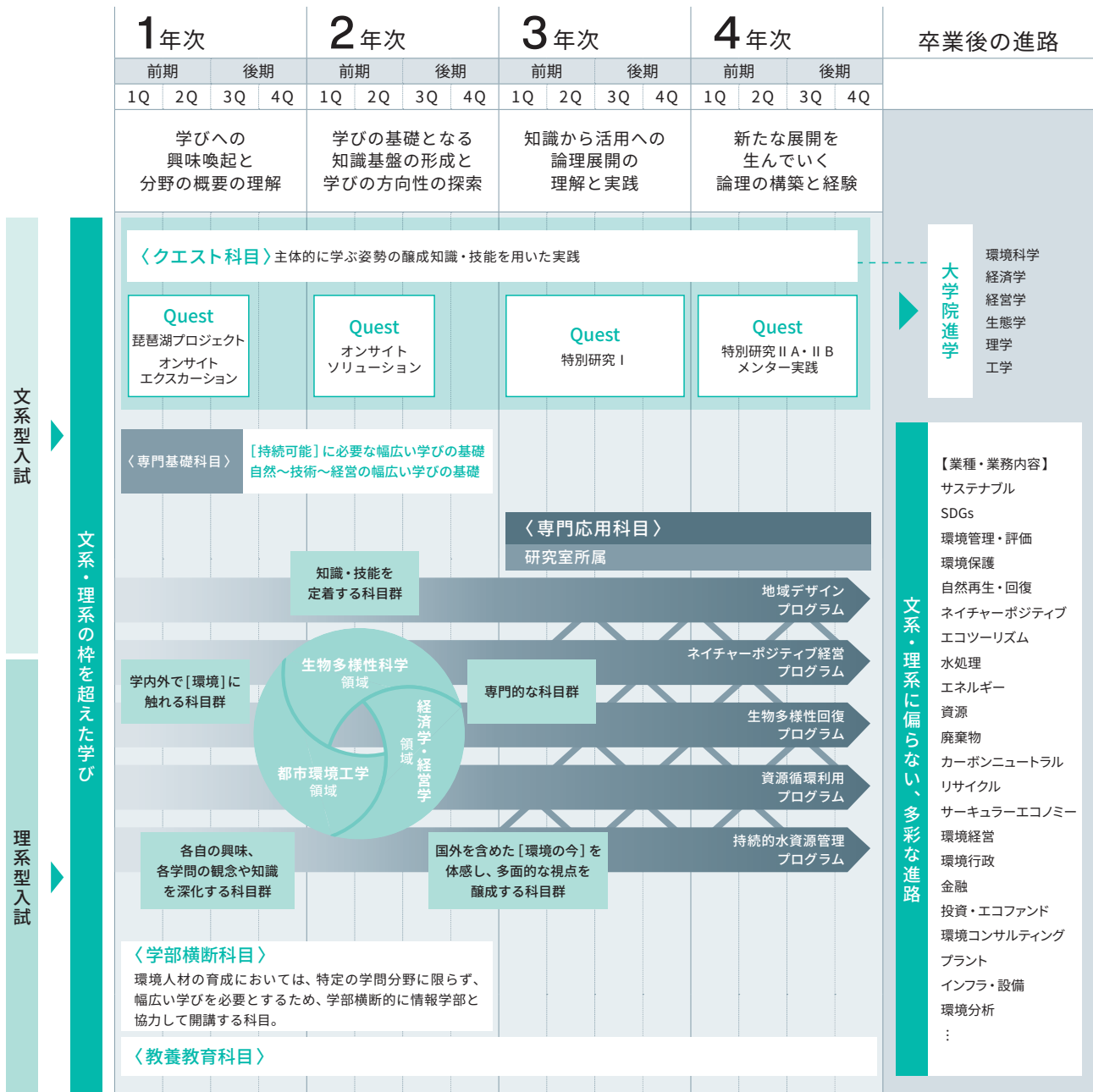
学部サイト



4年間で何を学ぶ？

「好き」からはじめて、「つながる」「ひろがる」環境の学び

文系・理系を問わずさまざまな学問の基礎に触れ、確信となった各自の興味に基づいて専門を選択し、多角的な視点や確固たるスキルを身につけることで、次世代の環境人材へ。



クォーター制：1年を4つの学期に区切って学修する制度。短期間で集中的に授業を行うため、教育効果が高くなり、柔軟なカリキュラムを組むことができる。

【取得できる資格】

【資格取得が可能】	【受験資格取得が可能】
中学校教諭一種免許状（理科）[国家資格] 高等学校教諭一種免許状（理科）[国家資格] 学芸員 [国家資格]	浄土真宗本願寺派教師資格 [民間資格]

【めざす職業・進路】

- 公務員 ● 環境 NGO / NPO 職員 ● 企業の企画・経営部門
- 教諭（理科） ● 環境プラントエンジニア（水処理・廃棄物焼却など） ● 環境保全技術者 ● 建設土木・環境コンサルタント ● 博物館学芸員 ● 環境教育インストラクター

※教職課程認定申請中。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開講時期等が変更となる可能性があります。
 ※2026年4月、文部科学省へ設置届出書類提出。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。なお、教員については就任予定です。

Course Model

興味・関心に合わせて学修モデル

どのような学びも、サステナビリティにつながる

環境サステナビリティ学部では、文系・理系にかかわらず、あなたの「興味のあること」「学んできたこと」「将来の夢」など、さまざまなことを軸として学ぶことができます。すべての軸が、サステナブルな社会の実現につながっています。

Model-1 環境と経済を調和させる：企業で自然を回復させる仕事に就きたい！

プライム上場企業、金融機関、経営コンサルタント、会計事務所、メーカー など

1年次	2年次	3年次	4年次
		研究室所属	
<ul style="list-style-type: none"> ●環境思想入門 ●ミクロ経済学 ●琵琶湖プロジェクト ●ネイチャーポジティブ経営概論 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然の浄化機構 ●自然環境を測る ●環境会計 ●環境データサイエンス基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ●サステナブルファイナンス論 ●EBPM実践 ●特別研究Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ●特別研究IIA ●特別研究IIB <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●メンター実践

Model-2 持続可能な地域を創りたい：地域の自然を活かし誰かの役に立つ仕事に就きたい！

ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、地域コンサルタント、公務員、地域金融機関 など

1年次	2年次	3年次	4年次
		研究室所属	
<ul style="list-style-type: none"> ●現代の環境課題と政策 ●NGO活動論 ●サステナビリティ概論 ●サステナビリティ経営論 	<ul style="list-style-type: none"> ●グリーンでのキャリア形成 ●EBPM概論 ●コミュニティファンド論 ●地域経済学 	<ul style="list-style-type: none"> ●経営管理論 ●地域経営研究 ●特別研究Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ●特別研究IIA ●特別研究IIB <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●メンター実践

Model-3 自然や生き物が好き：将来は生物にかかわる仕事に就きたい！

生物多様性の保全、森林管理、中等高等学校理科教員、公務員環境職、自然保護官（レンジャー） など

1年次	2年次	3年次	4年次
		研究室所属	
<ul style="list-style-type: none"> ●生態学概論Ⅰ ●生態学概論Ⅱ ●地域の環境を知る ●生態学基礎実習 	<ul style="list-style-type: none"> ●生態系観測実習A ●生態系観測実習B ●水域生態学 ●生物多様性保全学 ●陸域生態学 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境DNA分析実践 ●生態系生態学 ●特別研究Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ●特別研究IIA ●特別研究IIB <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●メンター実践

Model-4 資源循環を推進したい：技術で自然を守る仕事に就きたい！

廃棄物処理、リサイクル産業、環境プラント設計・管理、プラント機器メーカー、公務員環境職 など

1年次	2年次	3年次	4年次
		研究室所属	
<ul style="list-style-type: none"> ●現代の環境課題と政策 ●廃棄物の行方 ●サステナビリティ概論 ●サステナビリティ各論 	<ul style="list-style-type: none"> ●資源の持続的利用 ●資源循環システム ●リサイクル工学基礎 ●廃棄物と化学 ●大気と環境 	<ul style="list-style-type: none"> ●燃焼工学 ●環境アセスメント ●特別研究Ⅰ ●廃棄物処理施設設計・実験 	<ul style="list-style-type: none"> ●特別研究IIA ●特別研究IIB <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●メンター実践

Model-5 水資源を守りたい：社会と自然の橋渡しをする仕事に就きたい！

水処理、環境分析、上下水道コンサルタント、水処理プラント設計・管理、プラント機器製造業 など

1年次	2年次	3年次	4年次
		研究室所属	
<ul style="list-style-type: none"> ●水環境を知る ●流域から学ぶ ●サステナビリティ概論 ●サステナビリティ各論 ●都市工学実習 	<ul style="list-style-type: none"> ●流域水利用システム ●水域生態学 ●自然の浄化機構 ●自然環境を測る 	<ul style="list-style-type: none"> ●水処理工学 ●環境分析化学実験 ●水理学 ●特別研究Ⅰ ●水処理施設設計・実験 ●水の資源・エネルギー利用 	<ul style="list-style-type: none"> ●特別研究IIA ●特別研究IIB <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●メンター実践

Laboratories

研究室紹介

金森 絵里 研究室

ガバナンスと政策・ サステナブル経営・環境倫理研究室

持続可能な社会を実現するための 人間社会の仕組みを理解し、改善する

この研究のおもしろさは、環境問題を技術だけでなく人間社会の仕組みからとらえ直し、政策や地域づくり、企業戦略など現実の社会に働きかける方法を理解しながら、より良い未来を実際にデザインできる点にあります。社会の「見えない構造」が理解でき、学んだ知識がそのまま社会変革の力になる実践性と創造性が、この分野ならではの魅力です。具体的なプロジェクトを立ち上げ、制度・理論・実務に関する学問的背景を学び、企業や自治体・NPOなどと連携して多様な人たちとかわりながら、現実的な改善策を探究します。



金森 絵里 教授

[専門分野] 環境社会システム、会計学



その他の研究室テーマ

- 再生可能エネルギーの導入と運営を地域貢献型にするために
- 「kikito」はどうやってびわ湖の森を元気にするのか
- チェリオ滋賀工場におけるダイバーシティの取り組みはなぜ成功したか
- 環境DNA分析による環境会計の改善と実効性向上
- なぜIHIグループは愛知川流域で「小さな自然再生」活動を行うのか

白石 智宙 研究室

資源管理・農村・財政研究室

自然を使うことで自然を守る?! 二次的自然の管理とは

二次的自然である森林や草原は木材や飼料等の資源にとどまらず、多種多様な生態系サービスを私たちに供給しています。しかし現在では、管理放棄による荒廃や再生可能エネルギーの開発に伴う破壊などが起き、また森林や草原を抱える農村も衰退しています。当研究室では、農村が都市や社会全体とどのような関係をもって森林や草原を管理していくべきかを環境経済学や財政学などの視点から探究しています。農村がどのように衰退しており、生態系サービスの供給が劣化するなかで財政が果たすべき機能を明らかにすることが研究の目的です。



白石 智宙 准教授

[専門分野] 地域経済学、環境経済学、
財政学



その他の研究室テーマ

- 木質バイオマス発電所の燃料材需要と地域の木材需給
- 半自然草原の保全に必要な財政の機能
- ローカルな再生可能エネルギー事業の地域経済効果
- 再生可能エネルギー政策の日本とドイツの比較
- 農村の発展における移住者の役割



並木 州太郎 研究室

地域経済研究室

地域のルールを読み解き サステナブルな経済をデザインする

現代の社会課題は、気候変動のような世界規模のものから、私たちの足元で起こる身近な事象まで、複雑に絡み合っています。当研究室では、地域社会・経済が時代にあわせて変化する「トランジション（移行）」の視点から、課題の網の目を解きほぐし、新しい仕事や働き方を創出する方法を研究しています。なかでも、社会課題をビジネスの手法で解決する「社会起業家」や、地域外からかかわる「関係人口」の存在に注目しています。多様なアクターと対話し、経済発展と課題解決を同時に達成する仕組みを考えることで、「自分の行動が社会を変えられる」と確信して一歩を踏み出せる人材を育てます。



並木 州太郎 講師

[専門分野] 地域経済学、
地域経済政策、
社会的企業論



その他の研究室テーマ

- 滋賀・京都の地域経済を活性化する次世代のキープレイヤーは誰か
- 環境課題の解決と事業の成長を両立する起業家とは
- 地方からローカル・ベンチャーが多数生まれるような仕組みと仕掛けとは
- 関係人口が地域経営により深くかかわるようになるための仕組み
- 事業活動が生み出す社会的・経済的インパクトの測定

岩見 麻子 研究室

地域協働デザイン研究室

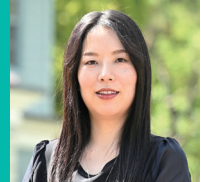
地域を情報の視点で読み解き 持続可能な未来を描く

気候変動は規模が大きく「自分事」としてとらえるのが難しい問題です。当研究室では、地域の統計データだけでなく人々の知恵や経験といった「地域知」にも着目し、インタビューなどで掘り起こした地域知をテキストマイニングの技術で整理・可視化します。その客観的な根拠を糸口に対話を促進し、多様な関係者との協働を通じて次世代へつなぐ地域の未来を実現するための具体的なアクションを導き出します。データと対話の両輪で社会を牽引し、持続可能な地域づくりを加速させる「地域協働の実践者」の育成をめざします。



岩見 麻子 准教授

[専門分野] 地域情報学



その他の研究室テーマ

- 多様な主体による地域課題解決のための協働プロセスのデザイン
- 気候変動に対する態度と影響実感の関係の可視化
- 持続可能な地域づくりを牽引する主導主体に関する研究
- メディアやSNSを用いた社会動向の把握と手法の検討
- 地域知の把握とテキストマイニングによる可視化

Laboratories

研究室紹介

岸本 圭子 研究室

昆虫生態学研究室

地道な野外調査と小さな虫の観察から 生物多様性のつながりをひも解く

滋賀県は琵琶湖だけでなく、県土の約半分を森林が占める自然豊かな地域です。この研究室では、里山や社寺林といった身近な自然をフィールドに、人間活動や環境変化が昆虫に与える影響を研究しています。一見小さな昆虫も、植物の受粉や土壌の分解など、生態系の循環を支える大切な役割を担っています。昆虫たちの営みは、めぐりめぐって私たちの暮らしにも深くかかわっています。地道な野外調査とおして生物多様性の実態をデータ化し、科学的な視点から人間社会と自然のつながりをひも解き、自然との共生をめざします。



岸本 圭子 准教授

[専門分野] 昆虫生態学



その他の研究室テーマ

- 森林に生息する甲虫・アリ類群集を左右する環境要因の解明
- 森林施業が昆虫の多様性に与える影響の評価
- 半自然草原における人の管理様式と昆虫の多様性の関係
- 外来種の生態解明と分布拡大のメカニズム
- DNA メタバーコーディングによる昆虫と植物・動物のつながりの解明
- 自然共生サイトにおける生物多様性評価—多様な昆虫群の変化を通して—

奥田 哲士 研究室

資源循環研究室

水や廃棄物を分けて 資源と価値を生み出す

人類が最も利用する物質である「水」の安全を守ることは、生活に直結する最優先課題です。当研究室では、化学を基礎に物理や生物の知見も取り入れ、それぞれの地域環境にマッチした最適な水処理技術を開発しています。水処理の過程で必ず発生する廃棄物を単なる「ごみ」とせず、有用な成分を抽出して利活用する資源化技術の追究も、重要な研究の柱です。現在は熱帯植物の成分を活かした凝集剤の開発に取り組み、ASEAN 地域の水質改善とカーボンニュートラルの両立に挑んでいます。挑戦を楽しみながら、一緒に最適解を追究していきましょう。



奥田 哲士 教授

[専門分野] 環境工学



その他の研究室テーマ

- 植物の種の成分を利用した水処理剤である天然凝集剤の開発
- 飲み水に使う過フィルターの目詰まりを低減する技術の開発
- ウルトラファインバブル（ナノバブル）の洗浄力の評価
- 生分解性プラスチックを含めたプラスチックのリサイクル技術の検討
- 大気を浮遊するマイクロプラスチックの挙動を把握
- 災害時の廃棄物の排出のされ方の調査や改善法の模索

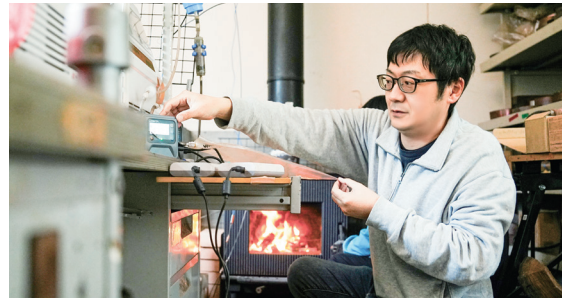


水原 詞治 研究室

廃棄物工学研究室

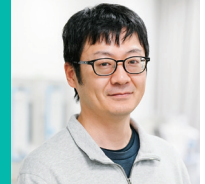
目には見えない「縁の下の力持ち」 廃棄物に新たな価値を与え、資源を循環させる

生活に欠かせない廃棄物処理は、「縁の下の力持ち」といえる分野です。限りある資源をうまく循環させながら使用し、廃棄物を低減することは、持続可能な社会を実現するうえで避けては通れない重要な課題です。この研究室では、太陽電池モジュール由来のガラスのリサイクル技術を追究しています。パネルに含まれる鉛やヒ素などの有害物質を熱処理技術で除去し、再び資源として活用する研究を進めています。これまで廃棄していたものを資源へ変え、未来の地球環境に貢献することをめざします。



水原 詞治 講師

[専門分野] 廃棄物工学



その他の研究室テーマ

- 太陽電池モジュールのリサイクル方法の検討
- 廃プラスチック類の活性炭化による有害物質の吸着挙動評価
- プラスチック製アメニティ使用による環境影響評価
- プラスチック被覆肥料使用による環境影響評価
- 木質バイオマスの有効利用
- 廃棄物の熱処理時の有害物質の挙動把握

鎌倉 真依 研究室

植物生理生態学研究室

環境変動のなかを生きる植物 その「生存戦略」から、地球の物質循環を解き明かす

森林生態系は、地球の炭素や水の循環を支える重要な役割を担っています。私たちは、植物が光合成でCO₂を吸収し、蒸散によって水蒸気を放出する「ガス交換」に着目し、植物の環境適応や気候変動への応答を明らかにしています。マレーシア熱帯林の巨木は、強光や乾燥にどのように適応しているのか、日本アルプスの高木限界で生きる樹木は、限られた資源をどのように利用しているのか。こうした問いに対し、フィールド調査と定量的解析を通じて、環境変動下における森林生態系の変化を予測し、持続可能な社会への貢献をめざしています。



鎌倉 真依 講師

[専門分野] 植物生理生態学



その他の研究室テーマ

- 熱帯の樹木は昼寝する？ 高温・乾燥下で生きる高木の生存戦略
- 樹木の幹は貯水タンク？ 針葉樹の水利用戦略
- 標高2500mで生きるには？ 日本アルプスの高木限界に生育する樹木の資源利用
- 森の地形は物質の動きを変える？ 微地形が森林の炭素循環に与える影響
- 幹からメタンを出している？ 湿地に生きる樹木と地球環境変動とのかかわり
- 竹はどこまで生きられる？ 加齢に伴う竹の水利用の変化が環境に与える影響

Careers

環境サステナビリティ学部の就職

「好き」からはじめて多様な価値観を 楽しみながら未来を共創する

環境サステナビリティ学部長（就任予定）**岸本 直之** 教授
2003年、龍谷大学に着任。理工学部助教授・准教授・教授、先端理工学部教授・学部長を経て、2025年、副学長に就任。

サステナビリティの取り組みには終わりがありません。時代や世代が変わっても取り組みを継続することが不可欠であり、その主体である人づくりが極めて重要です。また、価値観が多様化した今の時代においては、異なる専門性を有する人たちが互いを尊重しつつ協働し、共に解決策を見いだしていく「統合知」が必要です。環境サステナビリティ学部では、専門性をもちながら、多様な価値観を認め合うチームを形成し、より良い未来をデザインして前に進めていく、実践力を備えた人材の育成をめざしています。大切なのは「楽しむこと」と「実践すること」。何事も楽しくなければ継続できませんし、頭でっかちでは周囲の人を巻き込めません。失敗してもいい。まずは一緒に最初の一步を踏み出しましょう。



いま社会に求められる、環境サステナビリティ人材の力



人・経済・社会・環境が調和する 地域循環型社会を共につくる

滋賀県知事 **三日月 大造**氏

2014年、第53代滋賀県知事に就任。現在三日月。
2019年から本学農学部の客員教授。

滋賀県では琵琶湖を中心に、すべての「ひと」と「いきもの」が未来へ共に生きる、持続可能な地域づくりをめざしています。環境サステナビリティ学部の設置が、県の基本構想に掲げる「人・経済・社会・環境」を同時に推進する強力な拠点となることを期待しています。今日の環境政策は、従来の公害規制行政から、環境負荷管理、温暖化対策、生物多様性、循環経済といった多領域にまたがる持続可能社会に向けた基盤政策へと移り変わっており、環境政策全般の知見を有した総合力をもつ人材が待ち望まれています。近江商人の「三方よし」が育まれたこの地で、環境と経済、社会活動を結ぶ実践的人材を育成されることは、イノベーション創出にもつながると確信しています。琵琶湖を未来へつなぐため、自然環境と社会活動を両立させる実践的なリーダーが育つことを心から願っています。



主な就職先

※環境サステナビリティ学部は2027年4月開設のため、先端理工学部環境科学課程および先端理工学研究科環境科学コースの就職状況を掲載

あなたの「好き」が進路を「ひろげ」、サステナブルな社会に「つながる」
サステナビリティの推進に注力する企業は多く、幅広い進路選択が可能。

【エネルギー】

- 東京電力ホールディングス株式会社
- 関西電力株式会社
- Daigas エナジー株式会社

【建設】

- 住友電設株式会社
- パナソニック環境エンジニアリング株式会社
- クボタ環境エンジニアリング株式会社
- 大栄環境株式会社
- 内外エンジニアリング株式会社
- 積水ハウス株式会社
- 住友林業株式会社
- 大和ハウスリフォーム株式会社
- 株式会社一条工務店

【メーカー】

- ダイキン工業株式会社

● シャープ株式会社

- YKK AP 株式会社
- 株式会社堀場テクノサービス
- 株式会社島津アクセス
- トヨタ紡織株式会社
- 株式会社日立製作所
- タカラスタンダード株式会社
- 能美防災株式会社
- 株式会社アルピオン
- 株式会社ヤクルト本社

【輸送】

- ANA エアポートサービス株式会社
- 西日本旅客鉄道株式会社 (JR 西日本)

【金融】

- 日本生命保険相互会社
- 株式会社滋賀銀行

【サービス】

- スターバックスコーヒージャパン株式会社
- 株式会社ベネッセスタイルケア

【情報通信】

- NTT 西日本株式会社

【流通】

- 株式会社高島屋
- くら寿司株式会社

【公務員】

- 農林水産省
- 厚生労働省
- 国土交通省
- 防衛省
- 京都市役所
- 広島県庁
- 滋賀県教育委員会

● 京都府警察本部

【大学院】

- 京都大学大学院
- 広島大学大学院
- 三重大学大学院
- 早稲田大学大学院
- 龍谷大学大学院
- 海外の大学院

など

「自省利他」の精神で未来を切り拓く 次世代のサステナビリティ人材へ

新学部の創設を心より歓迎いたします。急速に変化する現代社会において、持続可能な未来の実現には、深い「学び」と「つながり」が不可欠です。「自省利他」の精神のもと、次世代のサステナビリティ人材を育成し、持続可能な社会の構築に貢献していかれることを大変心強く思います。当行も「世界が進むチカラになる。」というパーパスのもと、社会課題解決に挑んでいます。共に未来を切り拓いていけることを楽しみにしております。



MUFG 三菱UFJ銀行

株式会社三菱UFJ銀行
専務執行役員西日本駐在
(2026年4月1日付役職)

北村 慎氏

環境保護と社会価値の創出を両立させる 実践的な環境人材の育成を待望

コクヨは道具や空間のデザインを通じて、人々が好奇心を原動力に課題を解決し続ける「自律協働社会」の実現をめざしています。環境課題が深刻化するなか、企業には「いかに環境を守りながら社会価値を生むか」という手腕が問われており、貴学部の「実践的な環境人材の育成」という目標に大きな期待を寄せています。知恵を絞り、解決のプロセスを楽しみながら、共に持続可能な未来をつくっていただける人材が育つことを願っています。



KOKUYO

コクヨ株式会社
CSV本部サステナビリティ推進室 室長
横手 綾美氏

対話と共感を通じて多様な主体と協働し 持続可能な社会を牽引するリーダーを

サステナビリティ分野では、環境に関する専門知識はもちろん、企業や地域、時代背景の違いに向き合いながら、課題解決のプロセスを人と共に考え、形づくる力が求められます。特に大切なのは、環境と社会、人をつなぐ「環境コミュニケーション力」です。対話を通じて共感を生み、多様な関係者と協働しながら持続可能な社会づくりを推進できるリーダーとなれるべく、素晴らしい人材が、貴学部から育っていくことを大いに期待しています。



住友林業緑化株式会社

住友林業緑化株式会社
環境緑化事業部 みどり価値推進部 部長
田代 隆一氏

持続可能な未来を共に創る 世界へ羽ばたく次世代リーダーに期待

パナソニックグループは、長期環境ビジョン「Panasonic GREEN IMPACT」を制定し脱炭素社会、循環型社会の実現に向け事業活動を展開しています。自然共生分野では、当社が滋賀県草津拠点で育む「共存の森」と「龍谷の森」とは「しがネイチャーポジティブネットワーク」において連携しており、今後も地域のネイチャーポジティブ実現に向け、産学連携の活動を推進していきたいと考えています。この学部から持続可能な社会の実現に貢献する人材が数多く輩出され、世界へ羽ばたいていけることを期待しています。



Panasonic

パナソニック株式会社
GXセンター 所長
森本 泰史氏

びわ湖大津キャンパス*

大津市瀬田大江町横谷 1-5
Tel 077-543-7730 seta-suishin@ad.ryukoku.ac.jp

京都、大阪から好アクセス

JR 「京都」駅 → 約30分

JR 「大阪」駅 → 約60分

京阪「枚方市」駅 → 約45分(京阪「中書島」駅からキャンパス直通バスを利用した場合)

※2027年4月、「瀬田キャンパス」より名称変更。

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 環境サステナビリティ学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け入れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。



<https://www.ryukoku.ac.jp/newf2/>

※2026年4月、文部科学省へ設置届出書類提出。

設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。なお、教員については就任予定です。

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行